

学校推薦型選抜（指定校） 校内決定者数 発表！

9月20日（火）第2回推薦検討委員会、9月27日（火）第3回推薦検討委員会が開かれた（第1回は6日に早急に検討が必要な公募推薦対象者用として実施された）。校内決定者数は以下の通りである。

令和2年 111名 ・ 令和3年 90名 ・ 令和4年 79名
（本年度）

コロナ禍の影響で不安から推薦に多くの生徒が殺到した2年前、コロナ禍の影響も落ち着き、文科省の大学の定員以上を合格させてはいけないという指導の影響状態に戻った昨年、そして今年は先輩たちの一般受験の健闘の影響からか、本当に行きたい大学の指定校しか希望しないという本来の状態に戻りつつある。これは一般受験で大学合格を狙う生徒が多いことを意味する。

朝高の総合型選抜（AO）、学校推薦型選抜（公募） の動向も変化あり！

AO入試、公募推薦を受験する人数も指定校推薦に決まった生徒と合わせて、各クラス平均19名ほどで少ない。例年23名ほどである。しかも、AO入試、公募推薦で受験する生徒たちのチャレンジする学校の多くが中堅大学である。中堅大学に合格することはもちろん簡単ではない。落ちたら彼らはもちろん一般受験で再度チャレンジするのである。例年、確実に合格できる大学を狙う生徒が多かった。

大きな変化といえる。今年の学年は何か違う。

一般受験チャレンジ学年だ。

校内ベネッセ模擬試験の様子

9月17日（土）に実施したベネッセの模擬試験も300人近い生徒が受験した。例年120人くらいである。7科目め。この時間に残っている生徒の多くは国公立を受験する生徒である。7教科め終了時の夜7時。まだ35人くらい生徒がいた。昨年は9人くらいだった。国公立を狙う層も厚い。

赤本の貸出率が高い！

赤本の貸出率が高い。昨年は借りる生徒が少なかったが10月中旬から貸出率が急上昇した。今年は6月くらいから借りる生徒が出始めた。しかし、最近低調だ。大丈夫だろうか？

共通テストの出願者数も 過去4年で最高を記録！

令和元年 182 名 ・ 令和 2 年 176 名 ・ 令和 3 年 180 名 ・ 令和 4 年 191 名
(本年度)

共通テストの出願者数も令和に入ってから過去最高を記録した。

残る問題は君たちが「どれくらい勉強しているか」ということだ。勉強していなければ、当たり前だけど、いくら受験しても合格はしない。集中して勉強できる時間はあとわずかだ。

《 ベネッセ情報 》 早慶、法政は難易度が下がってきていましたが、今年は揺り戻しで難化傾向です。他は昨年と同じ合格難易度です。



推薦入試で面接がある生徒へ

ここからは推薦入試をこれから受ける生徒へのアドバイスだ。面接の仕方、小論文の書き方を君たちはすでに教わっている。しかし、教わるだけではうまくやれないのは知っての通りだ。小論文指導は終盤に入っているが、面接指導は 10 月初旬に学年の進路部主催で実施される。今まであった朝高生の悪い例をもとに面接のポイントをあげるので参考にしてほしい。

1 明るく元気な声で話す。入室して最初の「失礼します」は特に大事。

面接はイメージが大事だ。弱弱しく小さい声は、ちょっとした困難に負けてしまう生徒に見える。特に、入室時は一番注目される。「失礼します」が小さく弱弱しい生徒はもうダメだ。

2 志望理由はその大学にしかない特徴や何を学びたいかを語る。

志望理由を新しい設備やオープンキャンパスで学生が明るいと答える生徒がいるが、それらはメインの理由にはならない。面接官は教授たちだ。何をどうして学びたいかを聞きたいのだ。よそにも同じ学部があるのに、なぜうちの大学なのか？それを聞きたいのだ。それは少人数制であったり、研修制度があったりするからといった学びの気持ちが大事だ。

3 本当の短所を言わなくていい。

短所を 1 つ言ってくださいと質問すると、「短気です」「周りと合わせることができません」など本当の短所を話す生徒がいる。それを聞き採用するだろうか。「物事に集中しすぎて周りが見えなくなるときがあります」ぐらいのレベルに直して話すようにしよう。

※推薦入試の生徒は、将来何になりたくて、そのために何を学びたいのかを具体的に話すことができなければいけない。面接してみると意外に答えることができない。それは将来像や学びたいことが実は曖昧だから答えられないのだ。

(保護者の方へ)

本校ホームページ「進路」からも「進路便り」が見られます。よろしかったらご覧ください。